

Weekly コラム

平成 29 年 6 月 20 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会)

Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

ノーエア・ノーパンク

電気自動車・ハイブリッド車・燃料電池車など、車は日々進化していますが、進化しているのは心臓部ではありません。車の足、つまり車輪もまた次世代へと向かっています。

車輪自体の歴史は数千年前にまで遡りますが、ガソリンエンジンの登場とともに 1870 年に空気入りゴムタイヤが発明され、その性能一乗り心地、グリップ力、安定性一が劇的に向上しました。それにより人の活動範囲は大きく広がり発展し続けました。その間も、ゴムタイヤは改良を重ね、今日のタイヤがあるわけですか、今その根幹である空気を取り除かれようとしています。

その内の一つがブリヂストンの「エアフリーコンセプト」というプロジェクトです。

空気の代わりにコンピュータで計算された特殊形状の熱可塑性樹脂スポークをタイヤの側面に張り巡らせており、耐衝撃性、耐荷重性を実現しました。現在は自動二輪車と軽自動車の間である超小型モビリティ(重量 410kg)で時速 60km まで耐えられるようになっています。

開発の背景となったのはエンジンと同じく環境に対する懸念です。そもそもゴムは加工段階で大量の電気と熱を必要とし、CO2 の発生に繋がります。また使い終わった後も、腐食しにくいという性質はタイヤとしては長所ですが、廃棄物としては短所となります。そのため国内では約 90% がリサイクルされていますが、再加工する際に質が落ちてしまうので、そのほとんどがサーマルリサイクル(廃棄物の償却時の熱を利用)です。「エアフリーコンセプト」では、タイヤの側面はリサイクルが容易な熱可塑性

樹脂であり、ゴムの使用量が減っています。またバンクの心配が無く、その面でもゴムの消費が抑えられるので、二重三重に環境へ配慮されていると言えます。

実は「エアフリーコンセプト」では取り組みの一環で自転車用にもその技術を転用しています。2019 年には実用化できる目処との事です。実際に 4 月 30 日に久留米で行われた「ブリヂストン×オリンピック×パラリンピック a GOGO!」というイベントでは試乗会を行っていて、次回は 6 月 4 日に横浜で行われるそうなのでお近くの方は乗り心地を確かめてみてはいかがでしょうか。

新たな動力部が生まれ、呼応するかのように車輪も進化を遂げる、これは偶然にも自動車が急速に普及した百数十年前と同じ状況です。加えて、近年騒がれている自動運転などの新たな技術を考えると、当時と同じく人間社会が新たなステージに進む、その予兆なのかもしれません。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。